

大学の世界展開力強化事業 取組実績 筑波大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

人社系グローバル人材養成のための東アジア・欧州協働教育推進プログラム。

【構想の概要】

学士課程から博士課程まで一貫した東アジア・欧州協働教育プログラムを構築し、国際社会の中で日本の役割を発信する表現力、異なる価値観をまとめる先導力、東アジア・欧州が共同して問題解決に取り組む国際協調力、国際社会の現場で活躍するための行動力を総合的に涵養する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈オープニングフォーラム〉

1. 《学士レベル》日本語・日本文化コミュニケーター養成(履修証明)プログラム

2月13日～15日 モスクワ市立教育大学のストリジャック准教授／リュブリャナ大学の重盛講師、ゴリアンツ文学部副部長、カ・フォスカリ大学のトッリーニ准教授と、JLCCプログラムについてうち合わせ。(於筑波大学)

3月13日～18日 リュブリャナ大学の重盛講師、文学部副部長ゴリアンツ先生とJLCC授業の開設について(於リュブリャナ大学)、カ・フォスカリ大学のトッリーニ准教授、同大学のカルヴェッティ教授とJLCCプログラムについて(於ウィーン大学)打ち合わせ。



2. 《修士レベル》日独韓共同修士(デュアルディグリー)プログラム

2013年度からのプログラム開始に向けて必要な3大学間協定や事務手続きの準備中。ボン大学のツェルナー教授、高麗大学のパク教授、チェ教授らと実務者会談をたちあげ、カリキュラムや日程などの細部を調整。3月2日～5日には参加者募集・広報活動を兼ね、日独韓の約20名ほどの学生とともに、公開準備セミナーTEACH-Interuniversityseminarをボンで開催。

3. 《博士レベル》現代日本国際比較研究(履修証明)プログラム

2月15日、フランシュコンテ大学マルタン人文社会科学部研究科長、マリアージュ人文学部学部長とCOMPAS-CJSプログラムについて打ち合わせ。(於筑波大学)

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈リュブリャナ大学での日本語教育実習〉



【オープニングフォーラム】

平成24年2月14日筑波大学においてオープニングフォーラムを開催。連携大学であるリュブリャナ大学、モスクワ市立大学、ボン大学、ベルリン自由大学、高麗大学、フランシュコンテ大学、カフォスカリ大学より代表者を招聘し、各大学の連携構想についてのプレゼンテーションを実施。

【日本語・日本文化コミュニケーター養成プログラム学生派遣】

平成24年3月9日～29日、2名の学生をリュブリャナ大学に派遣。現地で2名のリュブリャナ大学生と共同研究を開始。スロベニア語講座への出席、リュブリャナ大学での研究発表、文化交流、日本文化紹介、また民族学博物館、国立美術館などを見学。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本語・日本文化コミュニケーター養成プログラムにおいて、平成24年3月9～29日リュブリャナ大学(スロベニア)へ2名の学生を派遣。

○ 外国人留学生の受入れ

外国人留学生の受入は平成24年度開始。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2	9	17	23	23
学生の受入	0	9	23	23	23

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 派遣する日本人学生へのサポート

派遣する日本人学生に対して、留学先のアカデミックカレンダーや単位制度の相違について十分な事前指導や、各教育組織と連携をとって留学中の状況を把握し、必要なサポートの提供を実施。

○ 受入留学生に対する語学支援とキャリアパス形成支援

受入留学生開始に向けて、留学生センター・各教育組織と連携した統一的サポート体制の調整、生活支援・日本語学習支援を行うチューター養成、国際交渉力強化プログラム(英語コース)におけるキャリアパス形成支援教育の提供を準備中。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

パンフレット作成

全体プログラム概要および各課程プログラムの履修カリキュラムについてのパンフレットを作成し、本事業に加わる各教育組織に配布。

ホームページ作成

本事業独自のウェブサイトを立ち上げ、全体プログラムおよび各課程プログラムのHPデザインを決定。これまでの取組や実施した交流プログラム公開に向けて準備中。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 千葉大学

【構想の名称】(タイプB-II)

大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)

【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③米国+欧州+日本の3つの異なる機関でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習
「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6つの質の保証

- ① 学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ② 大学院実施の英語によるプロジェクトベースドラーニングを学部2年生後期より導入
企業と連携したプロジェクトベースドラーニングで実践的な教育を実施
- ③ 日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④ 留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤ 卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥ 留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

〈国際プログラム会議とワークショップ〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(ワークショップのレポートとカリキュラム概要等)



○ カリキュラム構築のための国際会議の実施

平成24年(2012年)9月より実施する国際プログラムに関する会議を実施
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどの構築で合意

○ 4回のワークショップを実施 日本で3つ ヘルシンキで1つ

ヘルスケアの未来(禁煙プロジェクト)(ヘルシンキ)
K12エデュケーション・プログラム、ファーム・タウン、防災システムデザインの3つのワークショップを実施

○ 留学準備授業の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業

イモーショナル・デザイン、デザインシンキングなどの4つの英語による演習を実施
ブリティッシュカルチャー、エンジニアリングなどのコミュニケーションスキル授業実施

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

パイロットプログラム 大学院学生2名(6ヶ月×2機関)、1名(6ヶ月×2回目)、学部4年生-大学院1名(12ヵ月×1機関)
留学推進のワークショップ実施 2年生2名、3年生2名、4年生2名をMEDESワークショップ(ヘルシンキ)に派遣

○ 外国人留学生の受入れ

パイロットプログラム 学部2名(1セメスター×2機関)
留学推進のワークショップ実施
米国6名、英国6名、フランス6名、イタリア6名

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	4	5	5	5
学生の受入	2	6	10	10	10

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23は実績、H24以降は計画。

○ 派遣・受入の環境

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」を国際サポートデスクとアマエンスが機能を分担しながら連携
日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =国際サポートデスク
専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマエンス

○ 外部と連携した宿泊・渡航および安全管理システムの構築

国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括管理システムの構築 危機管理に関する包括提携=OSSMA

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを2カ国語で作成 ワークショップに関する国際サポートデスク
プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのビデオデータベース化を予定
http://www.design-cu.jp/code_web

大学の世界展開力強化事業 取組実績 広島大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

【プログラムの目的・養成する人材像】

地球市民の育成 INU参加大学及び広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

【構想の概要】

国際的大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、学生・教員の派遣・受け入れを通じて、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、特にInternationalisation at Homeを図る。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とこれらの融合分野で、協働教育を行う。

○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせる。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による人材育成
- ・Internationalization at Home
- ・教員・職員の相互派遣による国際化、人的・知的ネットワークの構築

〈INU参加大学〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈3月に実施したキックオフ会議〉



○ キックオフ会議の開催

本事業に係わる全大学のINU事業関係者、平和修士サマースクール、環境修士サマースクール、INUセミナーに関係する教職員約45名が参加したキックオフ会議を開催した。全体会議とともに、3分野のWGで本取組の全体の詳細、補助金終了後の計画に関する議論とともに、平成24年8月に開催される修士サマースクールのカリキュラムの詳細、リーディングアサイメントの決定、担当教員の分担、ロジスティックなどについて検討を行った。

○ 日本人学生の派遣

INU参加校の一つである米国ジェームス・マディソン大学に修士学生3名を派遣し、Spring SchoolにてJMU大学教員・本学教員が協働してこれら学生の教育にあたった。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年2月から3月にかけて、INU参加校の一つである米国ジェームス・マディソン大学に修士学生3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

平成23年度は期間が短かったため実績はなかったが、平成24年度から本格的に受け入れる。

〈JMUでのSpring School〉

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3	14	25	25	25
学生の受入	0	40	63	58	58

注)H23は実績、H24以降は計画。



■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

遠隔地共同教育支援システムを導入し、関係大学間の緊密な連絡・調整を円滑に行うとともに、ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール等で使用される英語テキスト・資料の作成や学生指導等に活用する。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 慶應義塾大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ) グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

2011年12月27日に高等電気学校Ecole Supérieure d'électricité (Supélec)とダブルディグリープログラムを締結し、プログラム拡大を果たした。また、協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E. Association加盟大学)との相互教員派遣を行い、留学生受入面接の実施や担当者と授業の取組や留学生の受入体制に関して打合せを重ねたため、活発な学生交換に繋がった。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

世界著名大学へ教員及び学生を相互派遣し、双方の学生の共同指導を実施することにより、国際的に活躍する将来のインダストリーリーダー育成を目指す。また、今年度実施した共同指導をきっかけに、博士課程ダブルディグリー展開への議論が活発化し、また今後の欧州域外大学との協力関係構築への布石となるなど、複合的な成果が見られた。

〈授業風景〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈企業訪問風景〉



○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

留学の準備課程として学部学生に対し、春休み期間を利用して複数の短期研修を用意し学生10名を派遣をした。また、次年度開講予定の学部1・2年生を対象に少人数体制の「国際人材育成セミナー」カリキュラムの完成へ向けて、教員4名を海外機関へ派遣し、国際的な教育の実態調査や国際人材育成セミナー夏期合宿での連携の可能性について議論した。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

春休み期間に協定校との間で学生の相互訪問プログラムを実行し、次年度より夏季休暇期間に実施予定の日本語・日本文化研修を目的とした短期講座の紹介を行った。本講座では、日本語の学習履歴に応じた日本語指導と低学年学生向けの研究室体験セミナーを実施し、修士課程の進路としての日本留学を広報するものである。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材に向けての学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等の派遣を実施した。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、サマースクール、博士課程学生の受け入れ、その他の研究研修プログラム等の実施を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	53	100	120	180	200
学生の受入	85	100	115	130	150

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23は実績、H24以降は計画。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関して複数回のガイダンスを行うとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。E-Learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主的勉学の環境を整えられている。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

世界標準的なカレンダーに合わせた9月入学・9月修了を取り入れるとともに種々の学内制度を用意し、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れる体制が整備されている。生活面においてはキャンパスから徒歩圏内に留学生寮、チューター制度等も整備されている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

本事業の中核をなす大学院修士課程でのダブルディグリー制度は、日本人学生の派遣において既設の修士課程に大幅な変更を加える必要がなく、日本と欧州の大学院教育における特質を相互補完的に利用することができる点で水平展開が容易に可能となる。また、留学生の受け入れにおいては、欧州とのアカデミックカレンダーとの相違を吸収すべく、9月入学・9月修了を可能とする必要があるが、研究活動に主眼がおかれたカリキュラムが組み立てられている限りにおいては、既設のプログラムへの変更は容易にできる。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 関西学院大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同運営委員会、共同教務委員会が発足

日加4大学がCCCに向けて協働することを最終合意し、協定書に調印しました。これにより、学長・副学長級が委員となりCCCの運営全体に責任をもつ「共同運営委員会」と、CCCに関する各大学の教務担当教職員で構成する「共同教務委員会」が発足。その後、これらの委員会が共通事項(第1次共通ガイドライン)について合意しました。

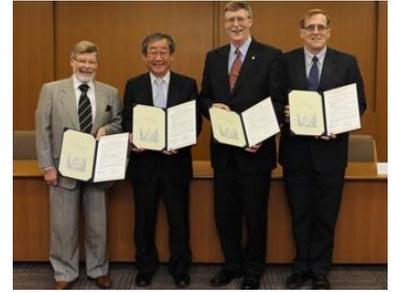
○ 質保証に関するセミナーを開催

日加の認証評価等について互いに紹介する「Quality Assurance Seminar」を他大学にも公開して実施しました。日加の相違点について理解を深め、CCCの質保証に役立てます。

○ 産官民の識者から助言・講評を聴取

産官民の識者6人からなる「アドバイザー・ボード」を形成し、第1回目の委員会を実施しました。CCCのコンセプトや今後の事業計画案について忌憚ない意見や助言等を聴取しました。

(4大学の代表者が協定書に調印)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



(Joint Seminar Pilot Program)

○ Joint Seminar Pilot Programを実施

本事業の教育プログラムの核となる科目の一つ「Joint Seminar」について、クイーンズ大学で1週間・日加学生各8人(計16人)規模で試行、交流プログラムを実施するうえでの課題や成果を検証しました。異文化の相互理解、日加学生の協働という教育面では予想以上に高い成果を得ることができました。

○ 平成24年度学生モビリティ科目を共同教務委員会で確認

平成24年度実施の学生モビリティ科目(詳細は下記「交流プログラムにおける学生のモビリティ」を参照)について、共同教務委員会がシラバス等を確認、当該年度の実施内容を確定しました。また、本学はリスク管理に関するガイドラインも策定しました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 多様な交流プログラムで日本とカナダの学生が共に学ぶ

日加の学生が交流しつつ学ぶことを重視。産業界と連携した科目の例に、日加の学生がペアで就業体験を行う「Global Internships」(GI)のほか、産業界が提示した課題を日加の学生がチームを作って分析し、解決策を企業へ合同でプレゼンテーションする「Global Career Seminar」(GCS)があります。日加それぞれ約20人の学生が両国で各2週間滞在し、多文化共生をテーマにフィールドワークやグループ発表を行う「Joint Seminar」(JS)も実施。また、JSまたはGIに参加するカナダ側学生を主対象に、日本や東アジアについて学ぶ6週間の「Asian Studies Summer School」(ASSS)も開講します。

○ 日本人学生の派遣

JSで24～25年度は各年20人、26～27年度は各年30人。加えてGIで26年度以降は各年2人、GCSで27年度に20人を派遣する計画です。

○ 外国人留学生の受入れ

JSで24～25年度に各年20人、26～27年度は各年30人、GIで24～25年度に各年10人、26～27年度は各年8人、GCSで24～26年度に各年20人を計画しています。ASSSは各年20人程度を予定しています。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	20	20	32	52
学生の受入	0	70	70	78	58

(注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣 カナダ側大学の協力を得てのStudy Abroad Fairも実施

本学は学業生活や就職活動に関する情報はすべてインターネット上で提供しており、学生は留学中も問題なく情報にアクセスすることができます。また、本教育プログラムにおける派遣学生の募集にあたっては、カナダ側3大学との綿密な情報交換・調整のもと、ホームページに詳細情報を掲載するほか、説明会や相談会を複数回実施し(一回はカナダ側教職員も招聘して「Study Abroad in Canada Fair」として実施)、個別相談にも随時応じています。

○ 外国人留学生の受入

本学国際教育・協力センター留学生総合支援課が一元窓口となり、本構想の推進室や学内他部署、学外諸機関と密接に連携しながら外国人学生の受入から学生生活、キャリア支援に至るまで適切なサポート、サービスを総合的に提供しています。また、本学トロントオフィスに常駐する職員が、適宜カナダ側学生に情報提供し、相談に応じています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ webサイト、冊子等の制作

23年度中の活動や24年度の計画について取りまとめた冊子媒体(2種類)を発行しました。ウェブサイト(<http://ccc-canada.jp>)では教育内容や活動の成果、今後の計画等を逐次公開するほか、冊子媒体等もダウンロードできるようにしています。